時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報

第三千百九十四號
明治廿四年十一月廿四日火曜日
舊暦辛卯十月廿三日(甲寅)
日出午前六時二十六分　日入午後四時二十九分
月出午後一時零分　月入午前十一時十分
潮午前十一時四十分　潮午後十一時四十分
(西暦一千八百九十一年)

帝國議會の議事筆記

第二期の帝國議會はいよ〳〵本日を以て召集せられ開院式の翌日即ち來る廿七日よりは議事を公開して復た政論の花を咲す事ならん依て本社は兼てより種々の準備をおしその開會中は殊に紙數二頁乃至四頁を増して詳細精確なる議事筆記を掲載し又簡潔なる議事の批評をも登錄し配達は特に神速おらしひるの用意夙に全く整へり故に議事公開の當日より時事新報の紙面には詳密なる議會の記事續出し讀者をして坐ながら日々議場に出入するの思ひあらしひるのみおら走議院外の出來事に就ても一層探訪を迅速にして記事を精細にす可し

明治廿四年十一月　時事新報社

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價郵送料廣告料は左の如し

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓〇月賦日休刊

〇時事新報社より直接に郵送スルモノハ右定價ノ外に一箇月十三錢ノ郵便料ヲ申受ク

時事新報廣告料(前金)

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行一回付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社(寄稿に付東京府下を始め各府縣に通信社あるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を飾塗するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

政府の覺悟如何

今の政府は自から超然主義と稱して絶へて政黨に關係なく世の政論の如何を問はずして其論するが宜しに任し其爲すがまゝに捨置くの旨を聲言して從來の政略は此主義に由りて行ふたるみどならんと雖も今回大隈伯辭職の一條に就て其挙動を見れば内閣には直接の關係おき樞密院の邊に隱然政黨の運動に關係したるものありとして殊更に其一人を指名して黜けたる程の次第なれば既に自から決する所ありて其決心を示したるものに外ならざるが如し樞密は至高顧問の職にして其職に在る者が陰に陽に政黨に關係するおとは相濟まざる儀おれば伯の辭職は自から理由なきに非ず從來の事態を云へは政府部内の人にても内々は政黨に關係する者もある可しと雖も之を寛大に看過して事の體面に妨なき限りは其人を問はざるの風ありしに今回に限りて特に英斷に出たるを見れば表面の理由は兎も角も現政府は大隈伯の挙動を以て當局者と主義を異にするものありと認め異主義者は政府の容るゝ能はざる所なりとて其決心を示したるの事實は疑ふ可らず既に他を異主義者と認めたる以上は自家にも亦自から一定の主義なきを得ず自家に一定の主義を立てゝ他と區別するときは最早や世の政論外に超然たるものに非ず自今以後日本の政府は超然政府に非ずして一定主義の政府なりと認めて不可なきが如し

兎にも角にも今回の事實は明に民間に反對黨あるを認めて之に對するの處置を施したるものおるが故に今後の政略は着々其方向に進まざるを得ず蓋し從來の政府は民間に政友あるも政敵あるも苟も現行の法律を犯さざる限りは之を捨てゝ問はざるの政略おりしが故に超然主義に安んずるも亦自から一案なりしならんと雖も今回の處置は恰も敵の所在を認めて政府の方より戰を挑みたるの姿おれば自から其敵に對するの覺悟おきを得ず其覺悟とは他なし第一には議場に多數を制する方略なれども議會の有樣を見れば所謂政府黨と稱するものは其勢力甚だ微にして本年度の豫算案の爭の如きも種々の手段を盡くして僅に一時を彌縫したる如き次第おれば今期に於ても十分の多數を制するは或は覺束なしと云はざるを得ず愈々多數を得ずして事態益々困難おるに至れば斷然議會を解散するの決心もなかるべからず既に解散と決すれば改撰の場合に於て更に多數を得るの用意もおかる可らず政府の覺悟容易ならずと云ふ可し

第二には假令ひ國會に多數を得ざるも確然執て屈せず更に非常の英斷を行ひ繁文を省略し税目を改正し老朽を退け才俊を進むる等斷然從來の情實を一掃して面目を改むるときは政府の人望を回復すると同時に其勢力も加はりて國會の向背の如きは敢て掛念するに足らざるみとおれども此英斷を斷行するには政府當局者の大決心を要する其外に大に少壯有爲の士を部内に網羅して其力を悉くさしめざる可らず即ち從來情實に養はれたる老朽官吏を淘汰すると同時に官吏登用法の如き窮屈おる規則を止めて眞實人才登用の路を開くに在るみとおれども當局者に此大決斷の勇氣ある可きや我輩の竊に疑ふ所なり既に外に向て國會の多數を制するみと能はざる其上に年來惰實の懷に生々して活社會の變通に乏しき其麾下の輩のみを頼み單に法律規則の力を以て今日の難局に當らんとするときは益々社會の人氣を損して事の混雜を見ざるを得ず當局者の心勞思ひ見る可し

假令ひ以上の決心はありとするも政府の事情今日の如くにして實際に責任の在る所、明おらざるに於ては其決斷を實にするみと固より望む可らず彼の世間にて黑幕と唱ふる老政治家は現に其局に當らずして責任なきが如くおれども現内閣と密接の緣ありて歴然事に預かるは一般の認むる所なれば或は今回の事に就ても其實際に關係の有無を問はず世間公衆の見る所にては多少の責を免かる可らず果して然らば老政治家も今は遥に此機會に乘じて斷然表面に顯はれ目下の難局に當りて大に爲すみとあるみと老餘の本意あれば難關の間に出沒して人の事を助るが如く又妨るが如く却て事實に益なくして機關の運轉を遲滯せしむるが如きは既に已に人の厭ふ所あり故に我輩は必ずしも老政治家の出るを待て蒼生を濟はんと云ふに非ず唯ろの出處を分明にして現政府の決斷を易くし以て民黨官幕の兩者をして決戰の機を得せしめんと欲するのみ

官報

○交部省令第十二號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第五十六條ニ基キ小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十四年十一月十七日

交部大臣伯爵大木喬任

小學校長及教員任用解職其他進退ニ關スル規則

第一條　小學校教員ハ學校ノ種類學級編制等ニ應シ相當ノ資格アル者ヲ任用スヘシ

第二條　市町村立小學校長ハ本科正教員中ニ就キ兼任スルヲ常例トス

第三條　府縣知事ニ於テ市町村立小學校ニ正教員ヲ任用スヘキ場合ニ當リ適當ノ正教員タルヘキ者ヲ得ルコト能ハスト認ムルトキハ期限ヲ定メテ准教員ヲ任用スルコトヲ得

前項ニ依リ一時教授スル准教員ハ其年齢男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上ナルコトヲ要ス

第四條　府縣知事ニ於テ市町村立小學校正教員ヲ轉任セシメントスルニ當リ若シ之カ爲メ正教員ヲ准教員トナシ又ハ俸給ヲ減少スヘキ場合ニ於テハ本人ノ意ニ反シテ之ヲ行フコトヲ得ス但特別ノ事情アリト認ムルトキハ此限ニ在ラス

第五條　府縣知事ニ於テ市町村立小學校ノ正教員左ノ事項ニ該當スト認ムルトキハ其情狀ニ依リ休職ヲ命スヘシ但休職ノ期限ハ一箇年以内トス

一　傷病ヲ愛ケ若クハ疾病ニ罹リタル者其職務ヲ行フニ妨ケアルコト二箇月以上ニ及フトキ

二　學校編制ノ變更等ニ依リ其人ヲ要セサルニ至リタルトキ

休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレ又ハ全ク之ヲ受ケサル等ノ外總テ本職者ト異ナルコトナシ

第六條　府縣知事ハ休職退職ノ事由ニ關シ第五條第六條ノ例ニ依リ雖モノアル場合ニ於テハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケテ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

第八條　市町村立小學校長及教員ノ任用休職退職等ニハ辭令書ヲ交付スヘシ

第九條　私立小學校長ハ其小學校ノ教員中ニ就キ兼任スルヲ常例トス

第十條　第三條准教員任用ノ規程ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用ス但任用ノ期限ハ其設立者ニ於テ之ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條　私立小學校ノ學校長ノ教員ノ任用解職ハ其設立者ヨリ府縣知事ニ開申スヘシ

第十二條　此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

文部省第二十號參照

○文部省令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第五十六條小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

明治二十四年十一月十七日

文部大臣伯爵大木喬任

小學校長及教員職務及服務規則

第一條　小學校長教員職務及服務規則ハ小學校令ノ教育ニ關スル勅諭ノ旨趣ヲ事體ニ依リ命令ノ指定ニ從ヒ其職務ニ服スヘシ

第二條　學校長ハ校務ヲ整理シ所屬教員ヲ監督スヘシ

學校長ヲ置カサル學校ニ於テハ首席教員學校長ノ職務ヲ行フヘシ

第三條　正教員及准教員一時教授スル者ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ並ニ職務上ノ命令ヲ遵守スヘシ

第四條　准教員(補助教授ニ準ス)ハ正教員ノ職務ヲ助ケ一時教授ノ執務時間ハ每週三十六時以下トス

第五條　市町村立小學校教員ハ補習科ノ授業ヲ擔任スヘキ場合ニ於テハ必要ニ應シ其教授ヲ擔任スヘシ

市町村立小學校教員ハ前項ニ依リ補習科ノ教授ヲ擔任スヘキ場合ニ於テハ相當ノ報酬ヲ受クルトキハ前條ニ掲クル執務時間ノ制限以外ニ於フモ差支ナシ

第六條　市町村立小學校長及教員ハ其家族ハ府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト關係スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第七條　此規則ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ムヘシ

第八條　市町村立小學校教員ハ其職務ニ關シ直接ニ文部大臣ニ上申スヘシ

○文部省令第二十一號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第六十一條ニ基キ小學校長及教員職務及服務規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十四年十一月十七日

文部大臣伯爵大木喬任

小學校長及教員職務及服務規則

第一條　小學校長及教員職務及服務規則ハ小學校令ノ教育ニ關スル勅諭ノ旨趣ヲ事體ニ依リ命令ノ指定ニ從ヒ其職務ニ服スヘシ

第二條　學校長ハ校務ヲ整理シ所屬教員ヲ監督スヘシ

學校長ヲ置カサル學校ニ於テハ首席教員學校長ノ職務ヲ行フヘシ

第三條　正教員及准教員一時教授スル者ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ並ニ職務上ノ命令ヲ遵守スヘシ

第四條　准教員(補助教授ニ準ス)ハ正教員ノ職務ヲ助ケ一時教授ノ執務時間ハ每週三十六時以下トス

第五條　市町村立小學校教員ハ補習科ノ教授ヲ擔任スヘキ場合ニ於テハ必要ニ應シ其教授ヲ擔任スヘシ

市町村立小學校教員ハ前項ニ依リ補習科ノ教授ヲ擔任スヘキ場合ニ於テハ相當ノ報酬ヲ受クルトキハ前條ニ掲クル執務時間ノ制限以外ニ於フモ差支ナシ

第六條　市町村立小學校長及教員ハ其家族ハ府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト關係スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第七條　此規則ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ムヘシ

第八條　市町村立小學校教員ハ其職務ニ關シ直接ニ文部大臣ニ上申スヘシ

○文部省令第二十二號

明治二十四年十月勅令第二百十五號小學校令第六十一條ニ基キ市町村立小學校長及教員職務及服務規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十四年十一月十七日

文部大臣伯爵大木喬任

市町村立小學校長及教員職務及服務規則

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一時超ユルトキハ數ヶ月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第二十二號參照

○文部省令第二十三號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第二十三號參照

○文部省令第二十四號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第二十四號參照

○文部省令第二十五號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第二十五號參照

○文部省令第二十六號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第二十六號參照

○文部省令第二十七號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第二十七號參照

○文部省令第二十八號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第二十八號參照

○文部省令第二十九號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第二十九號參照

○文部省令第三十號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第三十號參照

○文部省令第三十一號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第三十一號參照

○文部省令第三十二號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第三十二號參照

○文部省令第三十三號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第三十三號參照

○文部省令第三十四號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第三十四號參照

○文部省令第三十五號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第三十五號參照

○文部省令第三十六號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第三十六號參照

○文部省令第三十七號

勅令第二百十五號小學校令(明治二十三年十月勅令第二百十五號)第六十一條小學校長及教員ノ職務服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ハ左ノ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

市町村立小學校長及教員ハ前條ノ行爲ニ對シ其方法ノ多カラサル際ハ書面ニ代ヘ口頭ニ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一箇月ニ渡リテ每月俸額三分ノ一以下ニ減ス

第三條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其日ヨリ一箇年ニ達セサル間ハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其職員タル資格ヲ失フ

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校ノ懲戒處分ニ準用ス

第七條　私立小學校長及教員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　府縣知事ハ免職者ヲ其業務停止ハ一箇月以内ニ於テ其氏名ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

文部省令第三十七號參照

**○文部省令第三